

iTesting チャンネルによる HIV 検査体制の構築と確立のための研究

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学）

研究要旨

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進めることである。

令和 4-5 年度は検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査会を評価するためのアンケートの解析を行った。受検者に WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。本研究では、令和 4 年度から令和 5 年度に計 6 回実施したアンケートデータのうち、初の iTesting 受検であったものに限定し、ゲイバイセクシュアル男性とそれ以外の男性の 2 群、またさらに iTesting が生涯初の HIV 検査であったもの、それ以外の 2 群に分けて解析を行った。

GBM のほうが年齢層が若く、過去 1 年の HIV 検査受検経験、STI 罹患歴が高かった。GBM、non-GBM いずれにおいても生涯で初の HIV 受検のほうが年齢が若かった。検査会を知った情報源は、GBM については、GPS 付出会い系アプリが最も多く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、名古屋市 WEB サイトが最も多く、地下鉄の広告が続いた。また今後希望する検査については、土曜日オープンしている病院、クリニックを挙げたものが最も多かった。

最終年度は、多くの質問項目について、プログラム評価のための必須回答項目として設定した。その結果、令和 6 年度は、各回において、必須項目についてはほぼ全数の回答を得ることができた。第 1 回は 347 名、第 3 回は 365 名、第 2 回代替検査会は 342 名からの回答を得た。行政のプログラム評価とするために、回答必須の項目を設定したことで、より偏りのないデータの収集が可能となった。

A. 研究目的

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進める。最終的には、マニュアル策定を目指す。

受検者アンケートについて、男性に限定し、セクシャリティ別、さらに生涯検査経験別に比較し、受検者背景の比較、iTesting を知った情報源を明らかにした。

B. 研究方法

アウトリーチグループ：HIV 検査の重要性を説明した啓発資料の作成および設置、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査を評価するためのアンケートの作成（多言語対応）・解析、検査施行可能な場の模索、各コミュニティでの啓発活動、多言語対応した iTesting ウェブサイトの作成を行う。

本研究では、2 つの主要解析を実施した。一つ目は、2022 年から 2023 年にかけて全 6 回にわたり実施してきた受検者への質問紙調査データ 5 回分初回受検者のみのデータ（N=589）

を解析した。ゲイバイセクシュアル男性群（以下 GBM とする）と non-GBM の 2 群を設定し群間比較を行った。さらに、生涯で HIV 検査を受けたことがあるもの、ないものの 2 群に分けたうえで群間比較を行った。ゲイバイセクシュアル男性と GBM 以外の non-GBM の群分けは、GBM は自認するセクシュアリティをゲイ、バイセクシュアルと自認するものとし、non-GBM はそれ以外の男性とした。これまでの HIV 検査経験別の比較は、iTesting 受検以前にも HIV 検査を受けたことがあるものと、iTesting が生涯初めての HIV 検査であった 2 群に分けて実施した。

2 つ目は、毎回の回答者の属性の経時的モニタリングである。全 9 回のアンケートをまとめた結果を巻末資料 2 として添付した。

（倫理面への配慮）

検査は予約からすべて匿名検査で行っている。またアンケート調査も匿名検査で行い、名古屋医療センターまたは名古屋市立大学の研究倫理審査を受けて行う。受検者アンケート調査については令和 4 年度に名古屋市立大学看護学研究科の倫理審査を受審の上実施してい

る。

C. 研究結果

＜受検者アンケートの実施＞

受検者に WEB 上での結果サイトへアクセスする前に、任意で WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。各回の受検者数アンケート回答率はアルゴリズムに示す（図 1）。

全 9 回分の受検者アンケート回答の基礎統計、回答分布比較は巻末資料 1 に示す。

1. GBM と non-GBM の基本属性、検査行動、性感染症の既往（表 1）

GBM と non-GBM においては、セクシュアリティ、国籍、居住地、就労区分、HIV 検査の受検経験、直近の検査の受検場所、梅毒、B 型肝炎の自己申告の既往歴において、有意差がみられた。

GBM の方が non-GBM より外国籍の割合が高く（7.5% vs 2.8%）、県外の居住者が多く（20.2% vs 6.8%）、正社員の占める割合が低かった（69.7% vs 79.5%）。これまでの HIV 検査の受検経験は、GBM は 73.1%であり、non-GBM は、40.9%であった。直近の検査場所については、GBM の方が non-GBM より、イベント検査（13.5% vs 0.9%）、郵送検査を利用する割合が高かった（11.3% vs 2.8%）。

性感染症の既往は、梅毒は GBM は 13.0%と non-GBM の 5.2%より有意に高かった、一方でクラミジアは GBM は 9.0%、non-GBM の 15.2%であった。B 型肝炎は GBM は 6.5%、non-GBM は 0%であった。

2. セクシュアリティ群別の HIV 検査経験と基本属性、性感染症既往（表 2）

GBM においては、HIV 検査経験の有無と、年齢、セクシュアリティ、就労区分、梅毒、クラミジアの既往に有意な関連が見られた。

GBM においては、HIV 検査経験がない人のほうが 29 歳以下が多く、バイセクシュアルの割合が高かった。

就労についても検査経験がない人のほうが正社員割合が低かった。性感染症の既往は、HIV 検査経験のないもののほうがいずれも低かった。

non-GBM においては、HIV 検査経験がない人のほうが 29 歳以下が多かった。性感染症の既往については、梅毒については有意差があり、HIV 検査を受けたことがあるもののほうが既往歴は高かった（8.5% vs 2.6%）。

3. iTesting のことを知った場所（図 2）

検査会を知った場所については、GBM については、HIV 検査の有無にかかわらず、GPS 付き出会い系アプリが最も高く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、HIV 検査経験にかかわらず名古屋市ウェブサイトが最も高く、市営地下鉄広告が続いて多かった。

4. 今後希望する検査の種類（図 3）

今後希望する検査については、いずれの開催回においても、土曜日オープンしている病院、クリニックでの検査受検希望が最も多く、平日夜もオープンしている病院、クリニックでの検査が続き、コミュニティ検査での検査の受検希望が続いた。なお、こちらの集計はアンケート回答者全数を対象に作成している。

検査会の受検者、予約数、アンケート回答率

R4 第1回検査会(6月26日(日))
・受検者数 246 名(予約数 300 名、キャンセル率 18%)
・結果確認済み受検者 245 名
・アンケート回答者数 189 名、回答率 76.8%

R4 第2回検査会(9月4日(日))
・受検者数 270 名(予約数 340 名、キャンセル率 21%)
・結果確認済み受検者 270 名
・アンケート回答者数 180 名、回答率 66.7%

R4 第3回検査会(12月4日(日))
・受検者 286 名(予約数 341 名、キャンセル率 16.1%)
・結果確認済み受検者 286 名
・アンケート回答者 187 名、回答率 65.4%

R5 第1回検査会(6月25日(日))
・受検者数 315 名(予約数 341 名、キャンセル率 10%)
・結果確認済み受検者 315 名
・アンケート回答者数 200 名、回答率 63.5%

R5 第2回検査会(9月3日(日))
・受検者数 303 名(予約数 341 名、キャンセル率 13%)
・結果確認済み受検者 303 名
・アンケート回答者数 175 名、回答率 57.8%

R5 第3回検査会(12月10日(日)) ・受検者 316 名(予約数 350 名、キャンセル率 9.8%) ・結果確認済み受検者 315 名 ・アンケート回答者 185 名、回答率 58.8%
--

R6 第1回検査会(6月30日(日)) ・受検者数 347 名(予約数 400 名、キャンセル率 13%) ・結果確認済み受検者 347 名 ・アンケート回答者数 347 名、回答率 100%

R6 第2回検査会(9月1日(日)) 悪天候のため中止

R6 第3回検査会(12月8日(日)) ・受検者 368 名(予約数 400 名、キャンセル率 8%) ・結果確認済み受検者 365 名 ・アンケート回答者 365 名、回答率 100%
--

R6 第2回代替検査会(2月2日(日)) ・受検者 344 名(予約数 400 名、キャンセル率 14%) ・結果確認済み受検者 342 名 ・アンケート回答者 342 名、回答率 100%
--

D. 考察

GBM、Non-GBM の比較では、GBM の方が、愛知県外居住者やこれまでの HIV 検査経験がある割合が多く、過去にも様々な HIV 検査を利用している傾向がみられ、HIV 感染症への意識が高いことが示唆された。

また外国籍受検者の割合も GBM 群の方が Non-GBM より高かった。近年外国籍の男性同性間の性的接触による HIV 新規感染者、AIDS 患者報告が一定数あり、外国籍 GBM への検査促進は重要な課題であるが、iTesting@Nagoya のように WEB や会場で多言語対応を講じることで一定の利用がある可能性が示唆された。

梅毒やB型肝炎の既往は GBM のほうが高かった。東海地域では、GBM を対象に、行政による HIV や性感染症検査会が長らく実施されてきており、これらの検査会の利用経験が関連している可能性もあるだろう。

GBM、Non-GBM とともに、HIV 検査経験がない者のほうが、先行研究と同様に年齢が若く、今後若い年齢層を呼び込む必要性が示された。また GBM においては、HIV 検査経験がなかった者

のほうが、無職学生その他の割合が高かった。無職や学生には病院やクリニックでの検査費用の負担は大きいことが想定され、本検査のような無料で提供する検査機会は重要と考えられた。GBM も Non-GBM も性感染症の既往については、HIV 検査経験者のほうが梅毒、クラミジアの既往歴が高い傾向がみられた。GBM については、先述の東海地域で実施されてきたゲイバイセクシャル男性向けの HIV 性感染症検査会の利用が影響している可能性もある。HIV 感染症以外の性感染症が診断された機会には、同時に HIV 検査を勧める重要性が言われている。しかし non-GBM ではクラミジア、淋病、梅毒の既往があるにもかかわらず、HIV 検査機会はない者もあり、必ずしも HIV 検査勧奨がなされていない可能性がある。先行研究に示されているように性感染症の診断をした際に HIV 検査を勧奨する難しさを示唆する結果といえよう。

本 iTesting@Nagoya を知った情報源は、GBM は GBM 向けのアプリ広告が最も多く、Non-GBM は名古屋市独自の HIV 性感染症の検査関連情報サイト、市内地下鉄の広告が続いた。GBM、Non-GBM 両群において行政の HIV 性感染症関連情報を集約したサイトの認知は一定あり、これらの傾向も参考にし、効果的な広報のための資源配分を考えていく必要がある。

今後希望する HIV 検査の形態については、セクシャリティ別に、あるいは HIV 検査経験別に解析しても、いずれも土曜日にクリニックで受検したいニーズが最も高く、またコミュニティセンター、平日夜の検査、郵送検査にも一定のニーズがあった。大阪府、岡山市、また厚生労働省研究班では、医療機関を活用した GBM 対象の検査が実施されている。95-95-95 の第 1 の 95 を達成するうえでも、対象者のニーズに合わせ多様な検査の選択肢を設定する必要性は世界的にも有効な施策として示されている。今後日本の陽性者の早期発見の促進のためにも、日本でも検査の選択肢を増やす必要性があるだろう。

E. 結論

全 iTesting 検査会で受検者アンケートを実施した。全 9 回にわたり受検者の属性を掲示的に解析を行った。

GBM と Non-GBM の比較を行ったが、HIV 検査を受けたことがないものは若い年齢層に多いため、若者に届く検査にすること、GBM には、アプリ広告の活用が検査を受けたことがない受検者層を呼び込むうえで有効であることが示された。Non-GBM 群では、行政の HIV や性感

感染症の検査情報サイト、公共交通機関等目につく場所での広告も活用し、これまでに検査を受けたことがない者を取り込む必要性が示された。GBM、Non-GBM 双方を対象にし、かつ有効な検査とするためには、セクシャリティ別の特性を考慮に入れ検査広報、展開を図る必要がある。また利便性に配慮した iTesting@Nagoya のような検査会を契機に、その後は保健所や医療機関により提供される検査の利用につなげていくことも必要である。本調査でも多様な形態の検査へのニーズが示され、今後は、検査オプションの拡大も重要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Yusi Riwayatul Afsah, Noriyo Kaneko: Exploring Cervical Cancer Screening Awareness, Beliefs, Barriers, and Practices Among Indonesian Muslim Women in Japan: A Qualitative Study. BMC Public Health, 2025 Mar. accepted.
2. 金子典代, 今橋真弓, 吉田理加, 羽柴知恵子, 清枝求美, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市性感染症検査会の男性受検者の背景, 検査会を知った情報源, 今後希望する HIV 検査. 日本エイズ学会誌, 27(3). 2025 年3月. 受理済み
3. Kaneko Noriyo, Hill Adam Orlando, Shiono Satoshi. Factors associated with help-seeking regarding sexual orientation concerns among Japanese gay and bisexual men: results from a cross-sectional survey. BMC Research Notes, 17, 117(2024).
4. 高久道子, 金子典代, Myagmardorj Dorjgotov, Naympurev Garjanjams, Erdenetuya Gombo, 塩野徳史, 市川誠一. モンゴルの Men who have sex with men (MSM) における HIV に対するスティグマ低減を目指した啓発プログラムへの参加と HIV 検査行動との関連. 日本エイズ学会誌, 26(1), 22-30, 2024.
5. 金子典代, 健山正男, 和田秀穂, 高久陽介, 宮城京子. HIV 治療通院中の MSM における急性感染期の医療機関の受診, 受診先での HIV 検査の受検, 性感染症の既往. 日本性感染症学会誌, 34(1), 99-101, 2024.
6. Yusi Riwayatul Afsah, Noriyo Kaneko: Barriers to cervical cancer screening faced by immigrant Muslim women: a systematic

scoping review. BMC Public Health, 23;2375,2023

7. Lisa Kawatsu, Noriyo Kaneko, Mayumi Imahashi, Keisuke Kamada, Kazuhiro Uchimura: Practices and attitudes towards tuberculosis and latent tuberculosis infection screening in people living with HIV/AIDS among HIV physicians in Japan. AIDS Research and Therapy. 2022 Dec 3;19(1):60. doi:10.1186/s12981-022-00487-8.
8. Noriyo Kaneko, Nigel Sherriff, Michiko Takaku, Jaime H Vera, Carlos Peralta, Kohta Iwahashi, Toshihiko Ishida, Massimo Mirandola: Increasing access to HIV testing for men who have sex with men in Japan using digital vending machine technology. International journal of STD and AIDS, 2022 Jun;33(7):680-686. doi:10.1177/09564624221094965. Epub 2022 May 3.
9. Lisa Kawatsu, Kazuhiro Uchimura, Noriyo Kaneko, Mayumi Imahashi: Epidemiology of coinfection with tuberculosis and HIV in Japan, 2012-2020. Western Pacific Surveillance and Response, 13(1), 2022. DOI:10.5365/wpsar.2022.13.1.896

2. 学会発表 海外

1. Lisa Kawatsu, Noriyo Kaneko, Mayumi Imahashi, Kazuhiro Uchimura: Practices and attitudes towards latent tuberculosis infection screening in people living with HIV/AIDS among HIV physicians in Japan: an evaluation study in a low tuberculosis and HIV/AIDS burden setting. 8th Asia Pacific Region Conference of International Union Against Tuberculosis and Lung Disease, Virtual, 2022

国内

1. 金子典代. Special Symposium on Community-led Monitoring of HIV services. 国際シンポジウム. 第38回日本エイズ学会、2024年、東京.
2. 高久道子, 金子典代, 石田敏彦, 藤浦裕二, 塩野徳史. 東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象にした HIV/STI 検査行動と啓発普及方法の検討. 第38回日本エイズ学会、2024年、東京.

3. 金子典代：1st95 達成に必要な施策．
Fast-Track Cities Workshop Japan 2023，東京，2023
4. 金子典代、岩橋恒太：デジタルディスプレイを活用したゲイバイセクシュアル男性対象の HIV・梅毒検査キット配布プログラムの実施．第 31 回日本健康教育学会学術大会，東京，2023
5. 岩橋恒太、金子典代、本間隆之：本邦における MSM を対象とした Mpox 流行時における知識・関心・行動の検討：全国 MSM 対象のオンライン横断調査．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023
6. 金子典代、国見亮佑、太田貴、星野慎二、岩橋恒太、石田敏彦、塩野徳史、町登志雄、新山賢、舩石翔馬、玉城祐貴：郵送検査利用者アンケートから見た利用者属性、自己採血の困難感について－対面配布と WEB 配布の受け取り 2 群間の比較－．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023
7. 金子典代：市民・当事者目線で考える性感染症対策．パネルディスカッション「HIV 対策の歴史から学ぶ」2，Fast-Track Cities Workshop Japan 2022，東京，2022
8. 荒木順、金子典代、木南拓也、岩橋恒太、藤原孝大：コミュニティセンターにおける相談・支援の実際と課題、「場」の効果について．日本エイズ学会ワークショップ，第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会，浜松，2022
9. 羽柴知恵子、今橋真弓、金子典代、椎野禎一郎、横幕能行：診療情報及び看護記録に基づく HIV 感染者/エイズ患者の動向と疾病知識の普及啓発方法の検討．第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会，浜松，2022
10. 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態．第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会，浜松，2022

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

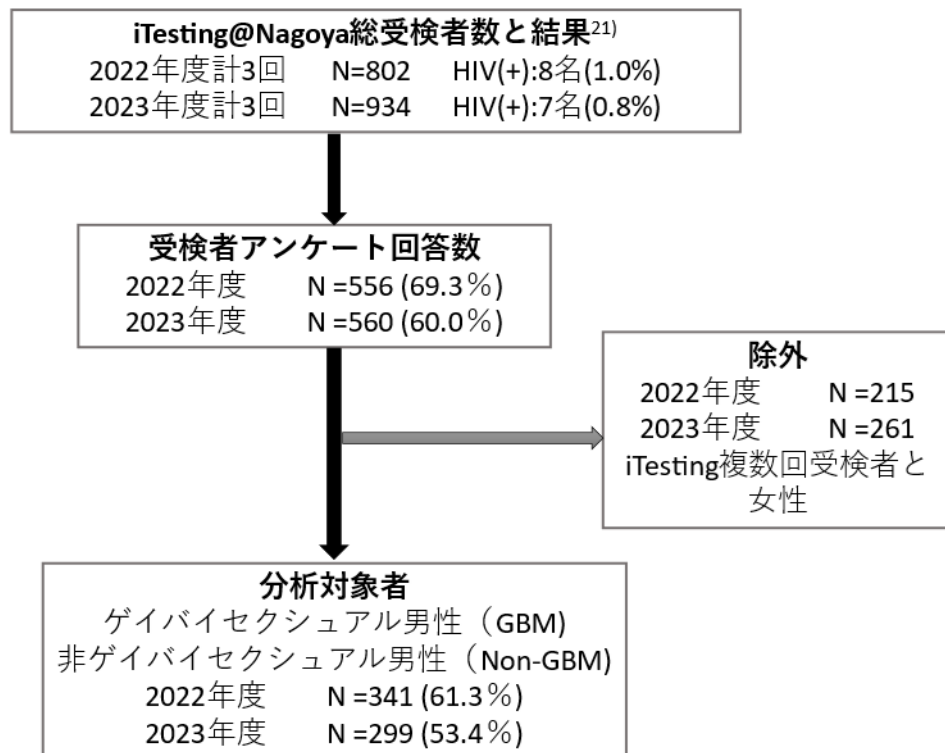


図1. 分析対象者選定までの流れ

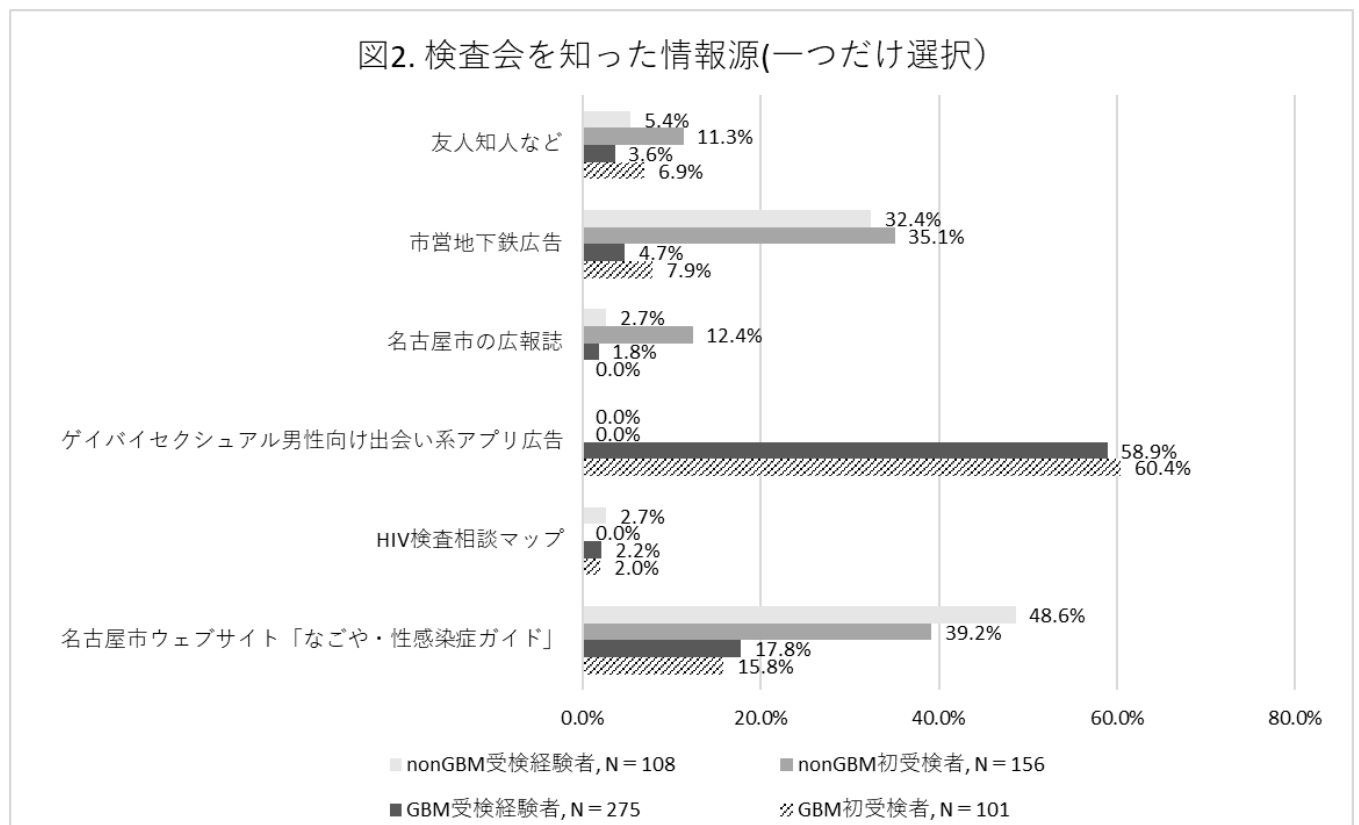


図3. 今後希望するHIV検査の形態（複数回答可）

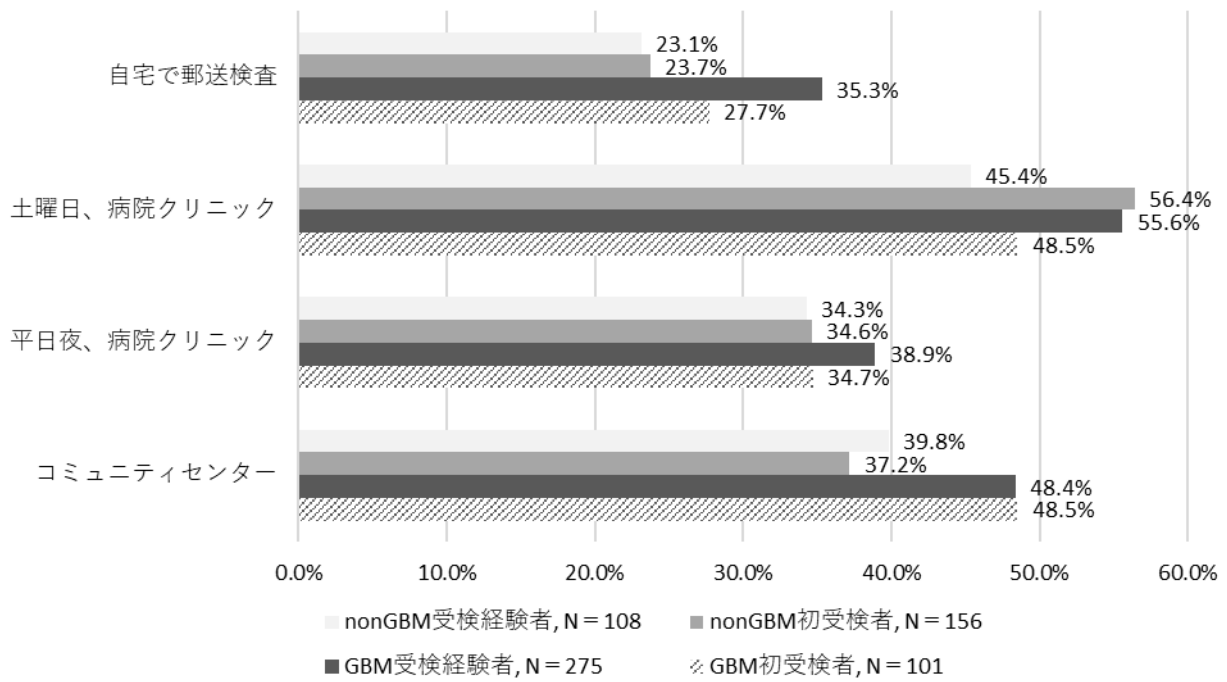


表1 受検者の属性。検査経験、性感染症の既往

	GBM(N=376)		non-GBM(N=264)		合計		P
	N	%	N	%	N	%	
年齢区分							
29歳以下	107	28.5%	65	24.6%	172	26.9%	0.17
30～39歳	113	30.1%	68	25.8%	181	28.3%	
40～49歳	79	21.0%	59	22.3%	138	21.6%	
50歳以上	77	20.5%	72	27.3%	149	23.3%	
セクシュアリティ							
男性同性愛者（ゲイ）	272	72.3%	0	0.0%	272	42.5%	-
両性愛者（バイセクシュアル）	104	27.7%	0	0.0%	104	16.3%	
異性愛者（ヘテロセクシュアル）	0	0.0%	203	76.9%	203	31.7%	
分からない・その他	0	0.0%	61	23.1%	61	9.5%	
国籍 *							
	GBM(N=200)		Non-GBM(N=211)				0.03
日本	185	92.5%	205	97.2%	390	94.9%	
その他	15	7.5%	6	2.8%	21	5.1%	
居住地区分							
名古屋市	170	45.2%	170	64.4%	340	53.1%	<0.001
名古屋市以外愛知県	130	34.6%	76	28.8%	206	32.2%	
愛知県以外	76	20.2%	18	6.8%	94	14.7%	
就労区分							
正社員	262	69.7%	210	79.5%	472	73.8%	0.01
非正規自営パートアルバイト	68	18.1%	25	9.5%	93	14.5%	
無職学生その他	46	12.2%	29	11.0%	75	11.7%	
これまでのHIV検査の受検経験							
ない	101	26.9%	156	59.1%	257	40.2%	<0.001
ある	275	73.1%	108	40.9%	383	59.8%	
直近のHIV検査の受検場所							
病院クリニック	41	14.9%	18	16.7%	59	15.4%	<0.001
保健所	105	38.2%	57	52.8%	162	42.3%	
行政日曜繁華街検査	59	21.5%	27	25.0%	86	22.5%	
イベント検査会	37	13.5%	1	0.9%	38	9.9%	
郵送検査	31	11.3%	3	2.8%	34	8.9%	
その他	2	0.7%	2	1.9%	4	1.0%	
直近のHIV検査の受検時期							
過去1年の間	120	43.6%	36	33.3%	156	40.7%	0.06
過去1年より前	155	56.4%	72	66.7%	227	59.3%	
性感染症既往 *							
	GBM(N=200)		Non-GBM(N=211)				0.01
梅毒	26	13.0%	11	5.2%	37	9.0%	
クラミジア	18	9.0%	32	15.2%	50	12.2%	0.06
淋病	9	4.5%	16	7.6%	25	6.1%	0.19
B型肝炎	13	6.5%	0	0.0%	13	3.2%	<0.001

* 2022年度第3回から追加した項目のため、回答数が他と異なる

表 2 検査経験別の基本属性、性感染症の既往

表3. 検査経験別の基本属性、性感染症の既往

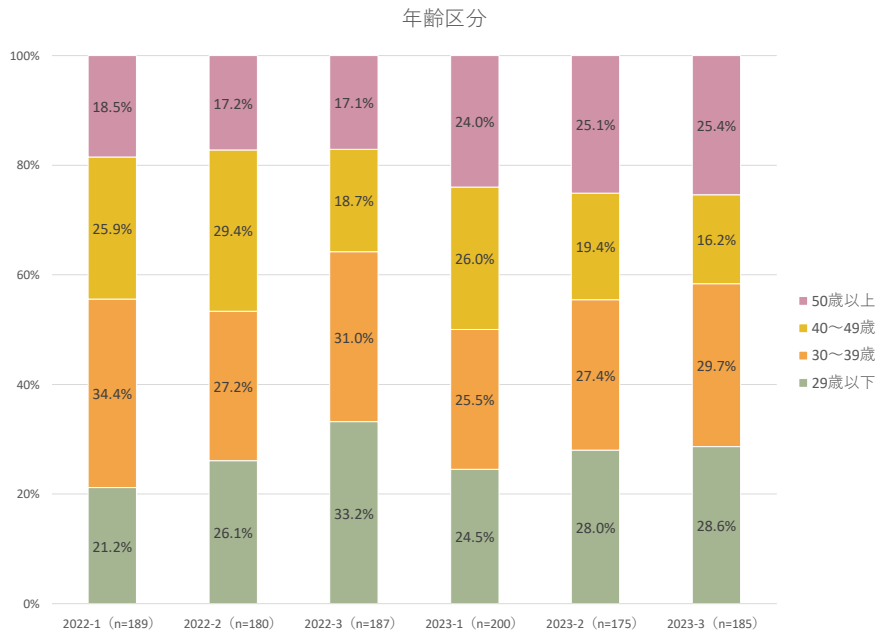
		GBM (N=376)				p値	nonGBM (N=264)				P
		HIV検査経験あり (N=275, 73.1%)		HIV検査経験なし (N=101, 36.9%)			HIV検査経験あり (N=108, 40.9%)		HIV検査経験なし (N=156, 59.1%)		
		N	%	N	%		N	%	N	%	
年齢区分											
	29歳以下	59	21.5%	48	47.5%	<0.001	19	17.6%	46	29.5%	0.018
	30～39歳	85	30.9%	28	27.7%		24	22.2%	44	28.2%	
	40～49歳	63	22.9%	16	15.8%		26	24.1%	33	21.2%	
	50歳以上	68	24.7%	9	8.9%		39	36.1%	33	21.2%	
セクシュアリティ											
	男性同性愛者（ゲイ）	211	76.7%	61	60.4%	<0.001	0	0.0%	0	0.0%	0.380
	両性愛者（バイセクシュアル）	64	23.3%	40	39.6%		0	0.0%	0	0.0%	
	異性愛者（ヘテロセクシュアル）	0	0.0%	0	0.0%		86	79.6%	117	75.0%	
	分からない・その他	0	0.0%	0	0.0%		22	20.4%	39	25.0%	
国籍 *		N=146		N=53			N=94		N=117		
	日本	138	93.9%	47	88.7%	0.22	93	98.9%	112	95.7%	0.163
	その他	9	6.1%	6	11.3%		1	1.1%	5	4.3%	
居住地区分											
	名古屋市	130	47.3%	40	39.6%	0.05	63	58.3%	107	68.6%	0.316
	名古屋市以外愛知県	98	35.6%	32	31.7%		35	32.4%	41	26.3%	
	愛知県以外	47	17.1%	29	28.7%		10	9.3%	8	5.1%	
就労区分											
	正社員	204	74.2%	58	57.4%	<0.001	85	78.7%	125	80.1%	0.901
	非正規自営パートアルバイト	51	18.5%	17	16.8%		10	9.3%	15	9.6%	
	無職学生その他	20	7.3%	26	25.7%		13	12.0%	16	10.3%	
性感染症既往 *		N=146		N=53			N=94		N=117		
	梅毒	26	17.7%	0	0.0%	—	8	8.5%	3	2.6%	0.053
	クラミジア	17	11.6%	1	1.9%		18	19.1%	14	12.0%	
	淋病	8	5.4%	1	1.9%	0.28	9	9.6%	7	6.0%	0.327
	B型肝炎	12	8.2%	1	1.9%	0.11	0	0.0%	0	0.0%	—

* 2022年度第3回から追加した項目のため、回答数が他と異なる

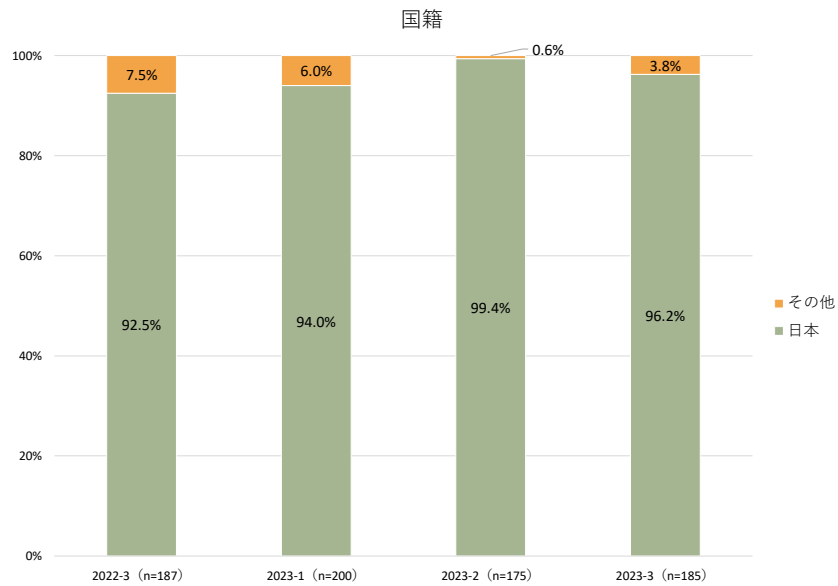
資料 1

2022年-2023年の 受検者アンケート集計

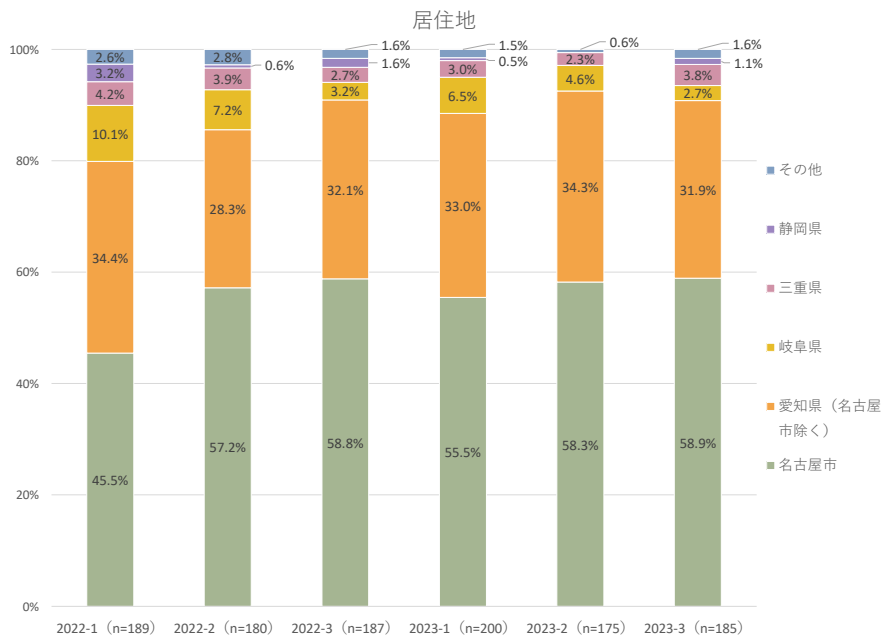
1



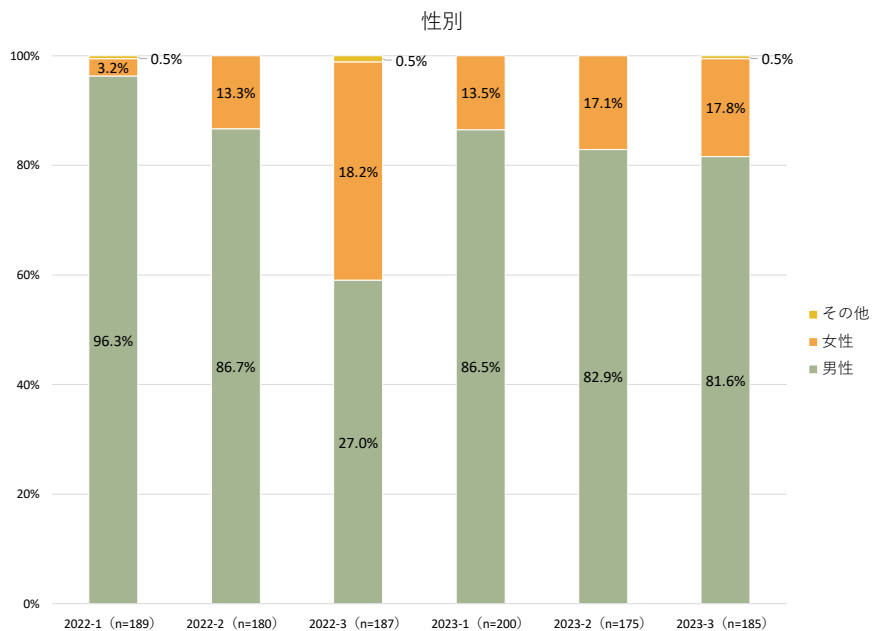
2



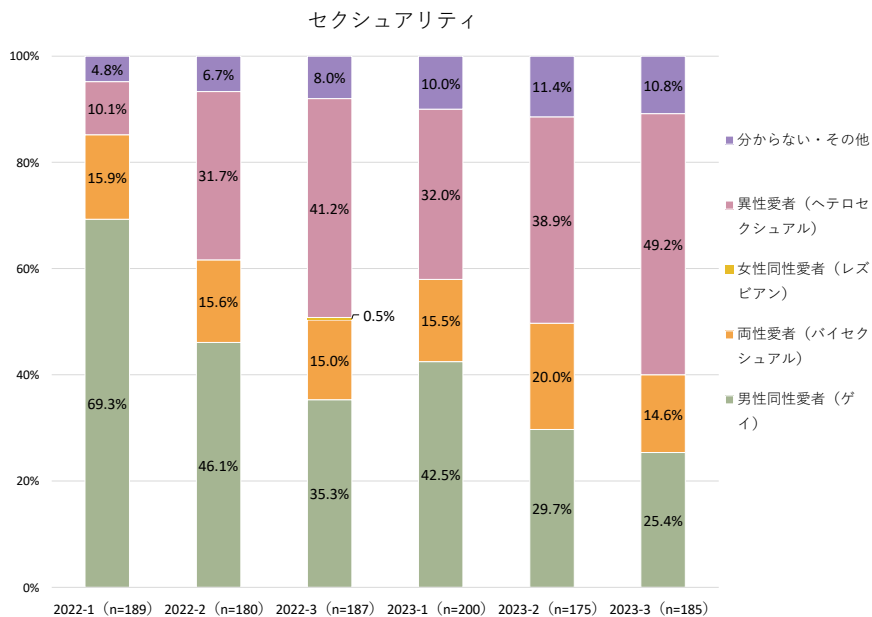
3



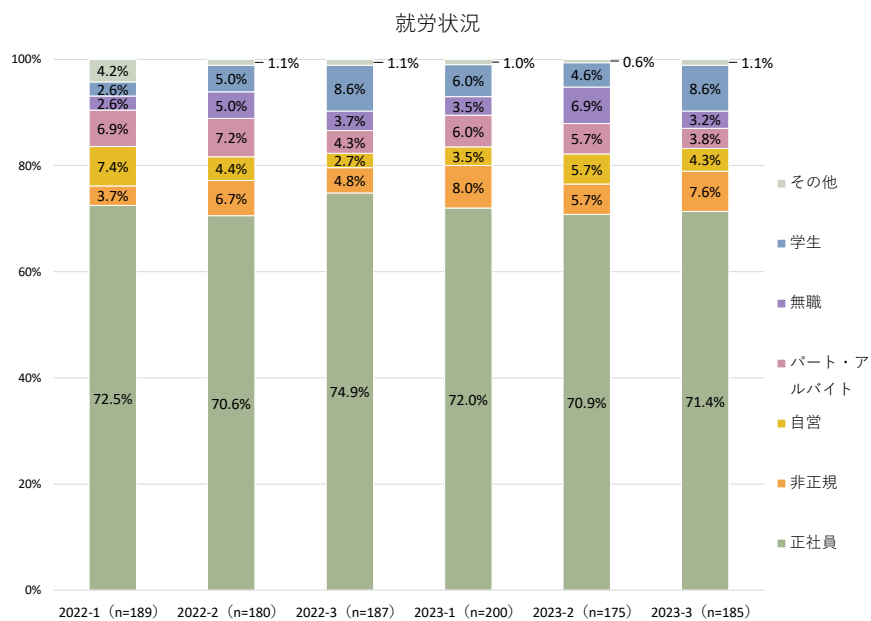
4



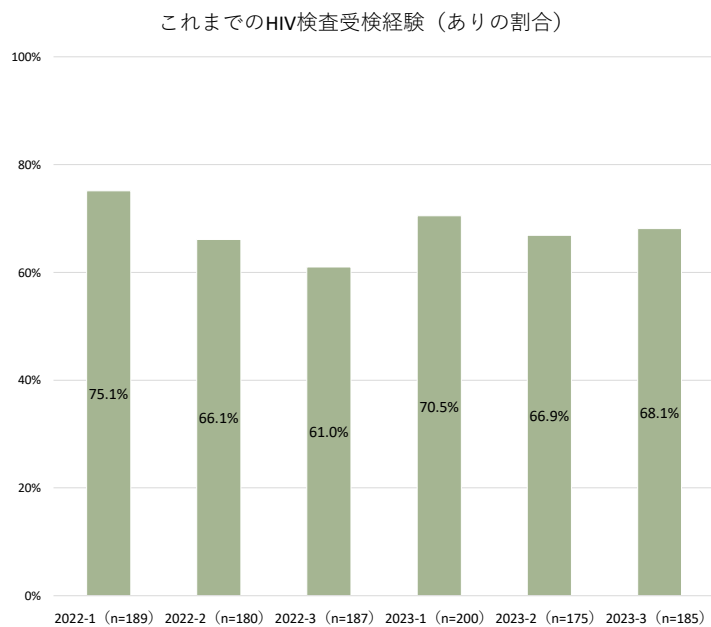
5



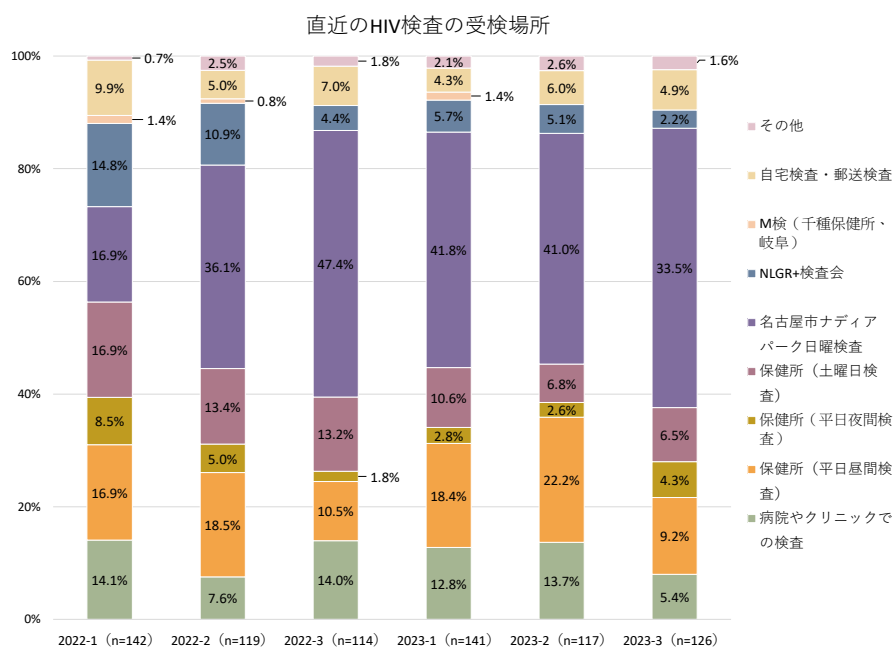
6



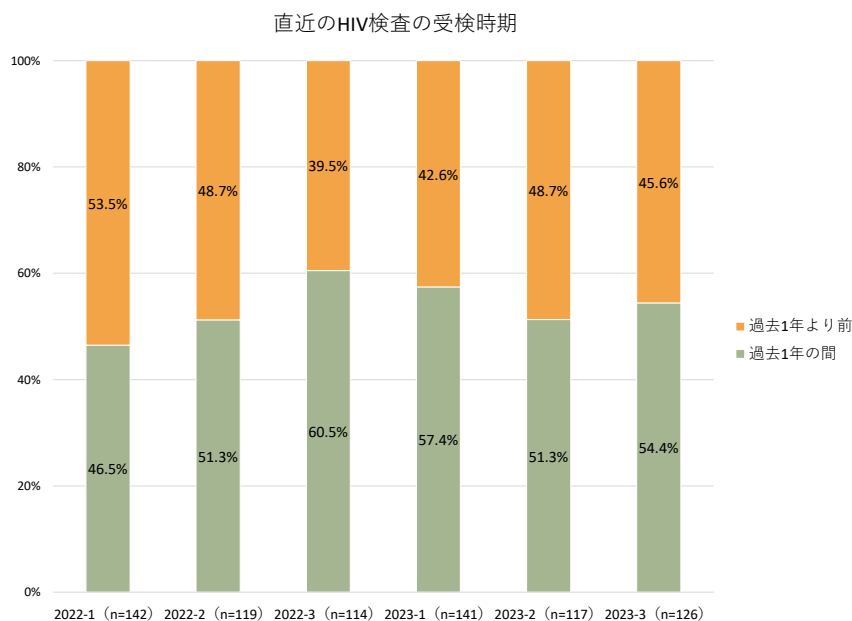
7



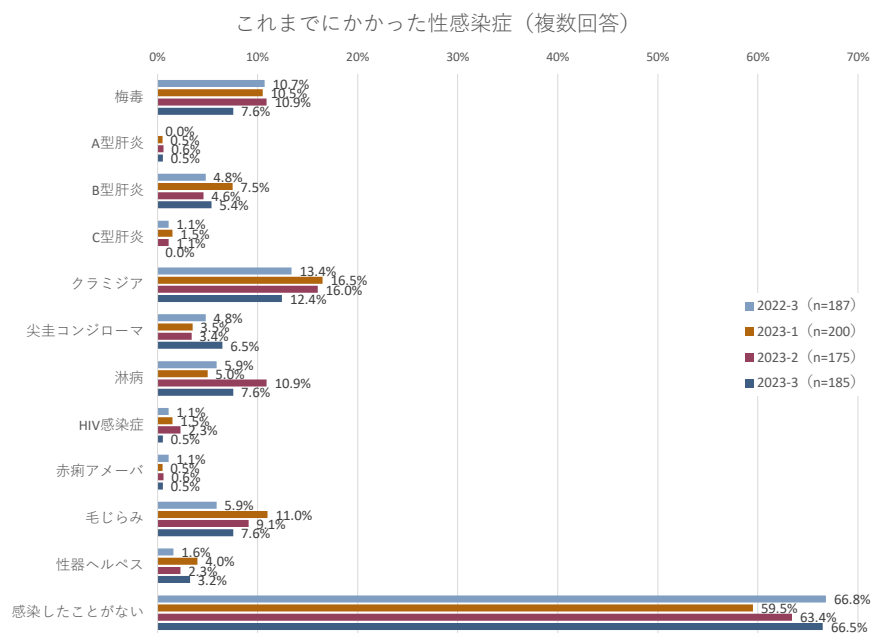
8



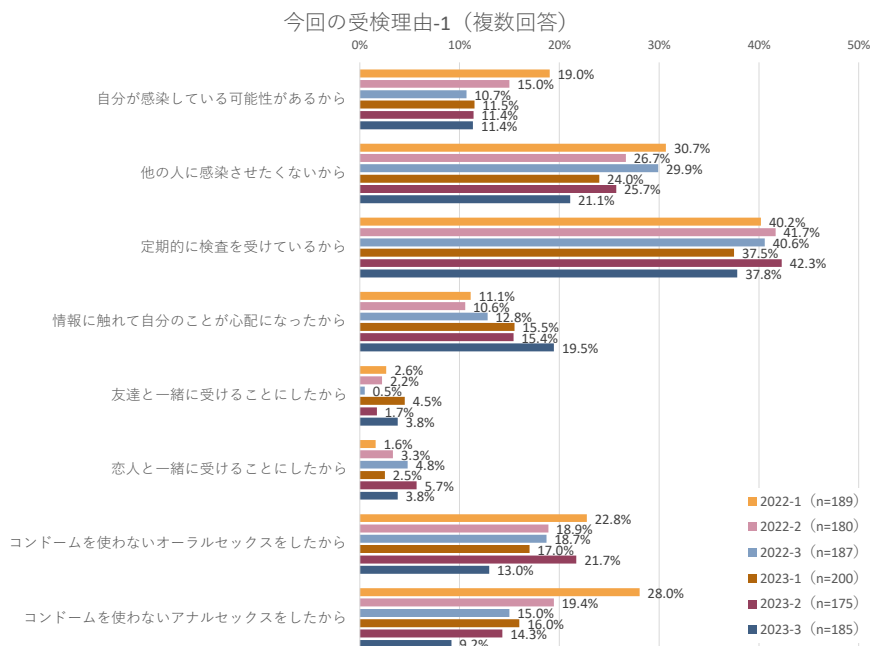
9



10

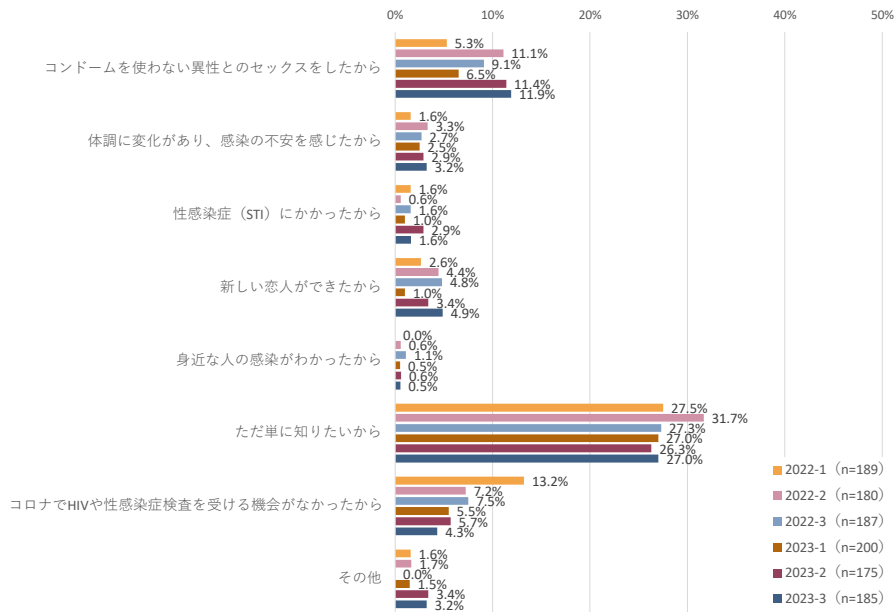


11



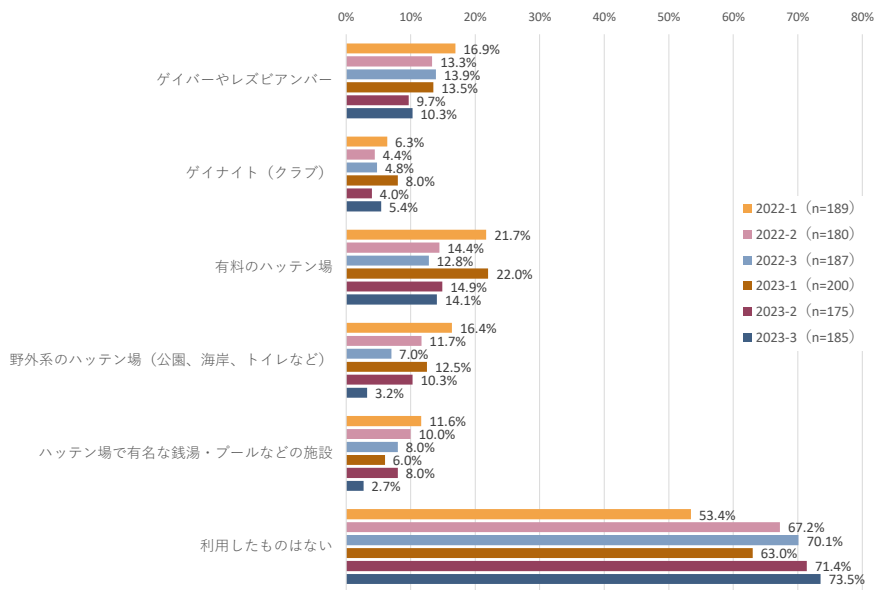
12

今回の受検理由-2（複数回答）

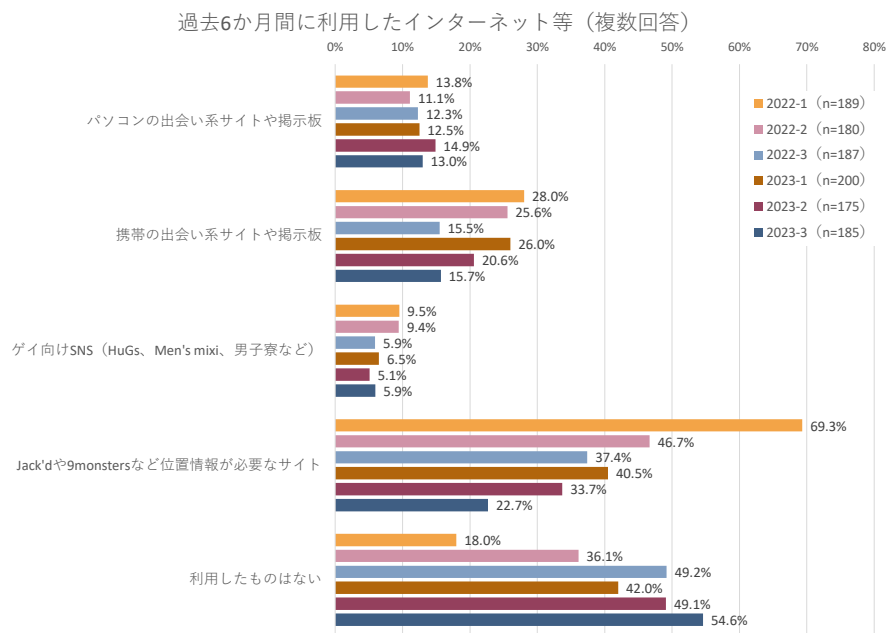


13

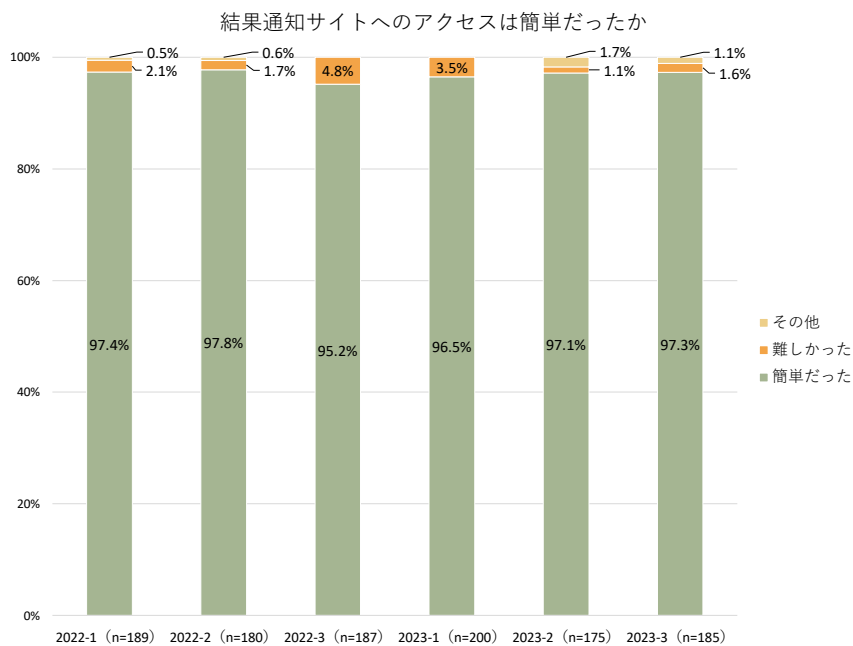
過去6か月間に利用した施設等（複数回答）



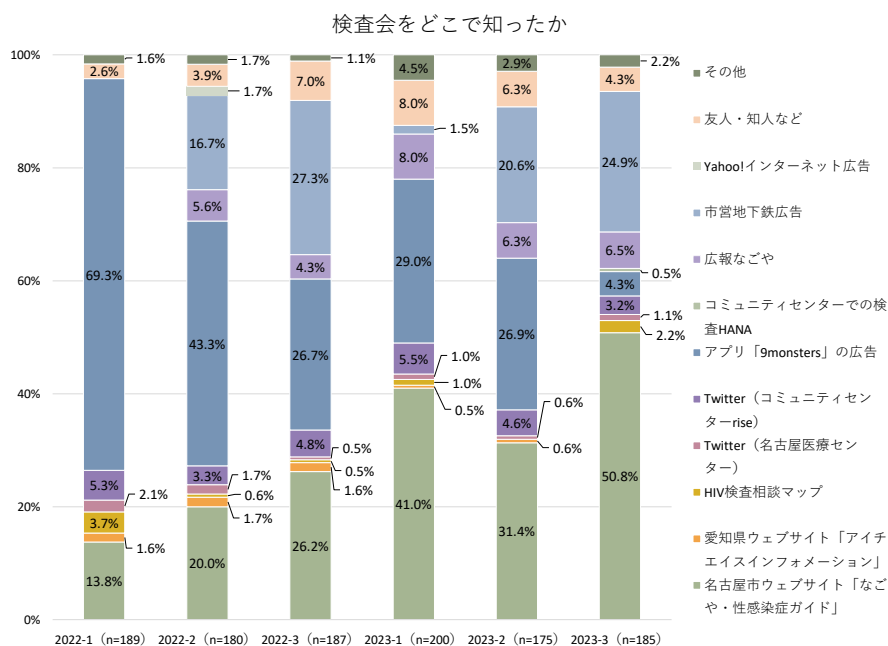
14



15

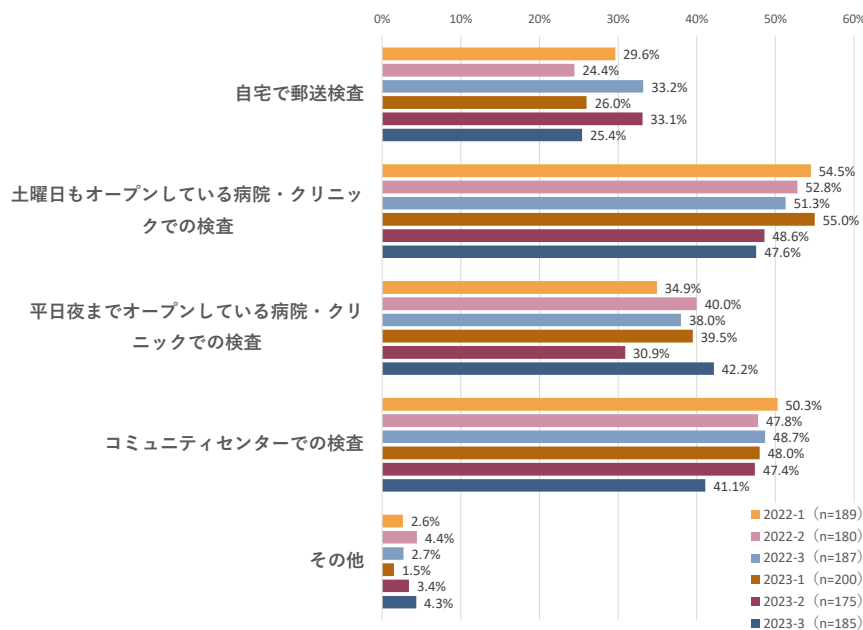


16

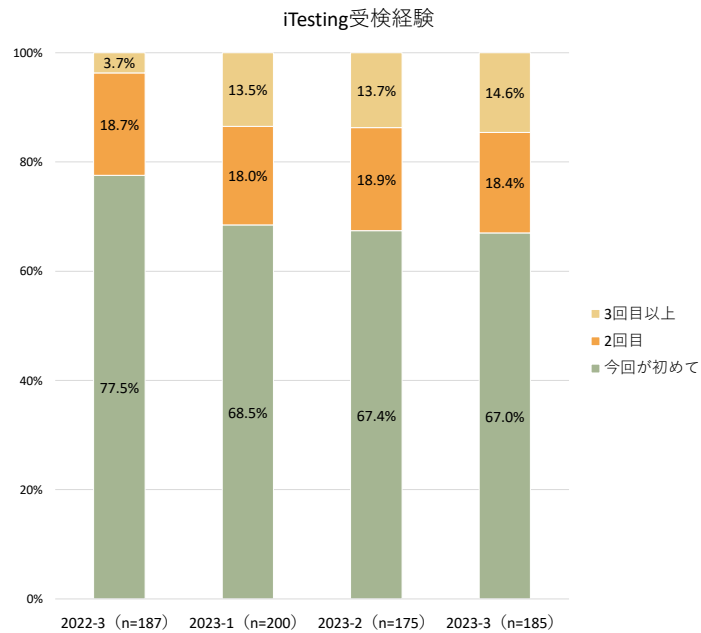


17

図3. 今後、希望する検査場所（複数回答）



18



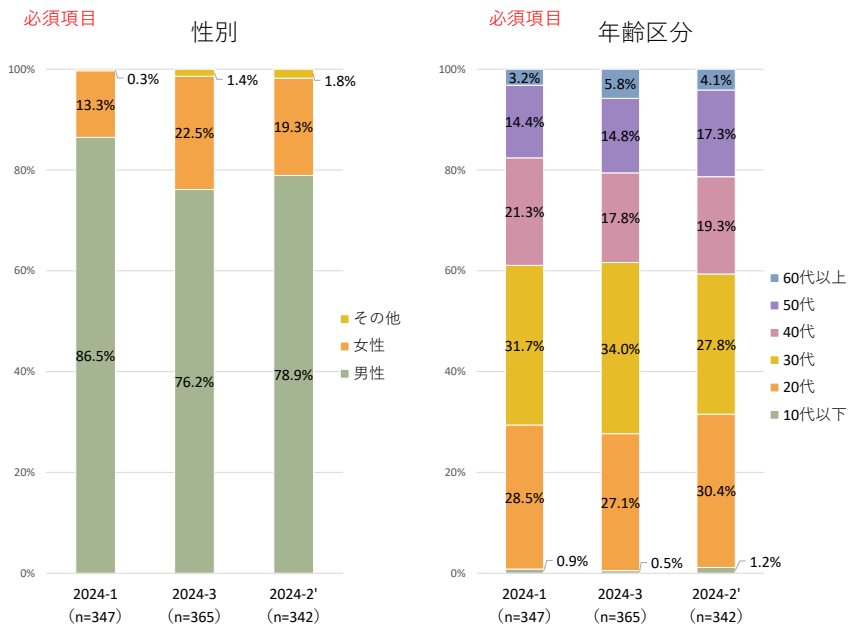
19

iTesting受検者アンケート調査 2024年度

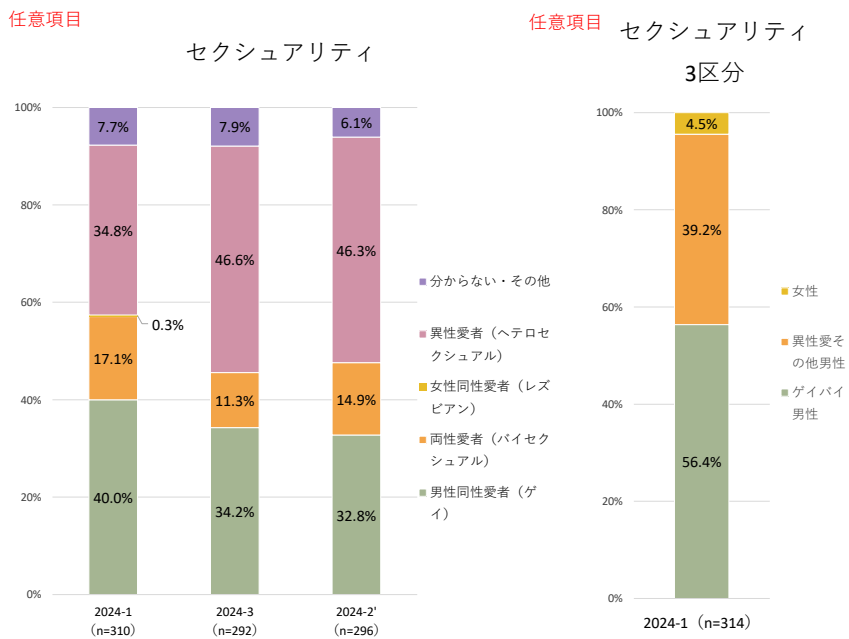
第1回検査会 6月30日（日）
 第3回検査会 12月8日（日）
 第2回代替検査会 2月2日（日）

2024年度から、行政検査の効果評価のため、検査結果
 にアクセスする前のアンケートとして、
 多くの項目について回答必須と変更した

20



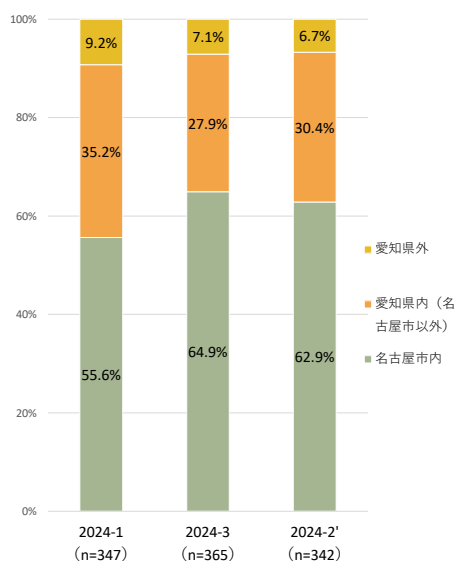
21



22

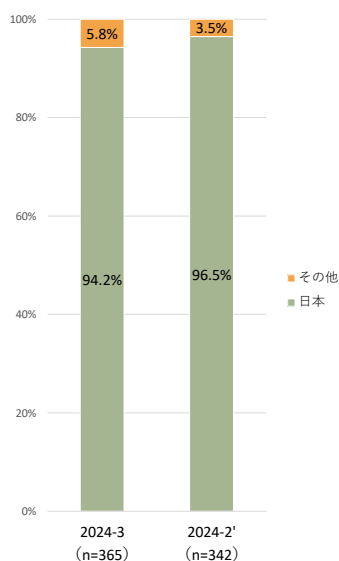
必須項目

居住地



必須項目

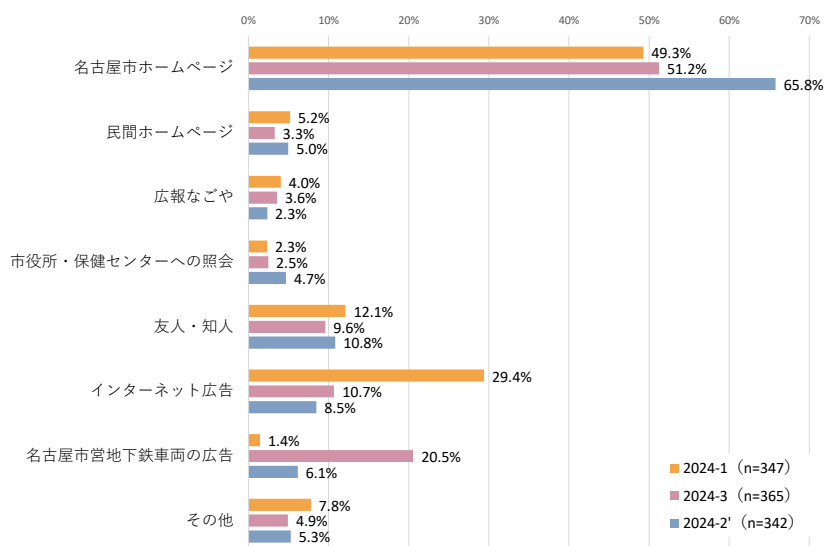
国籍



23

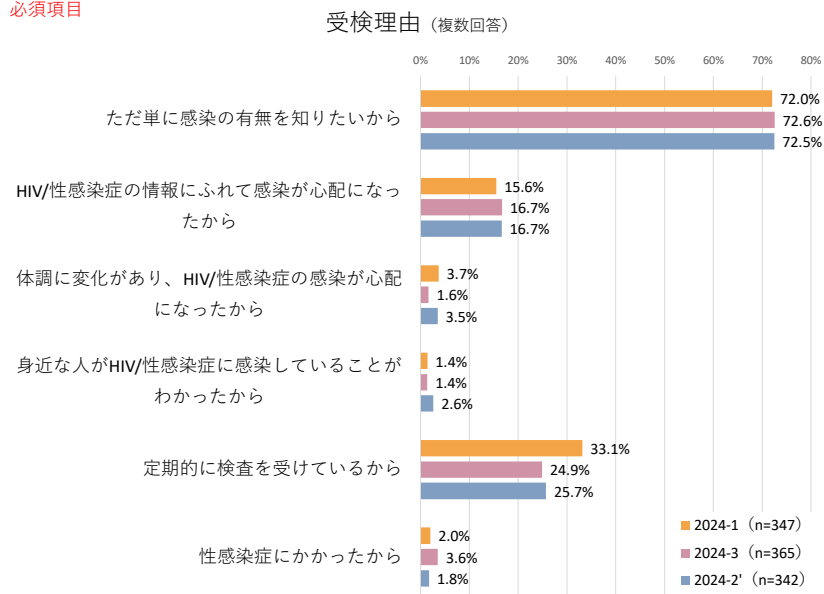
必須項目

検査会をどこで知ったか（複数回答）



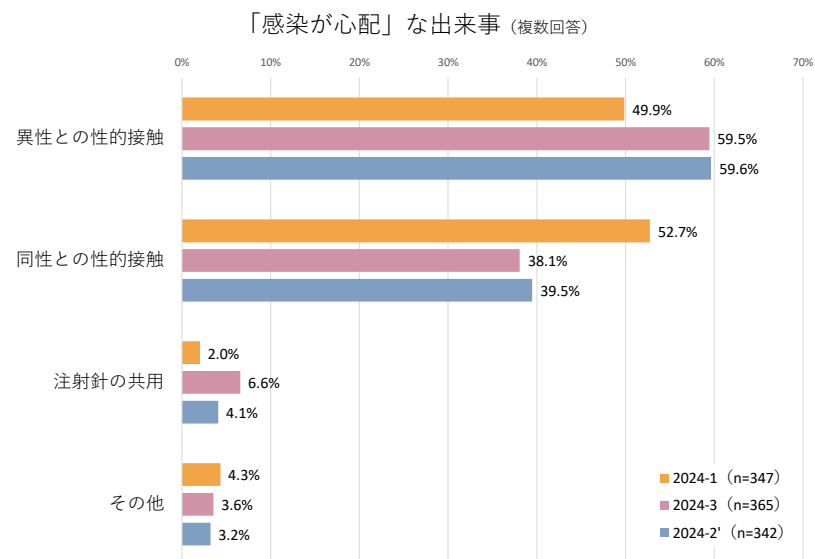
24

必須項目



25

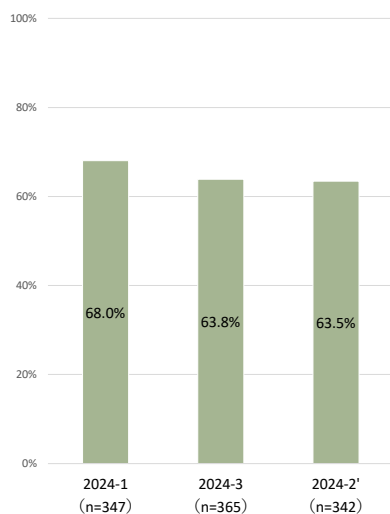
必須項目



26

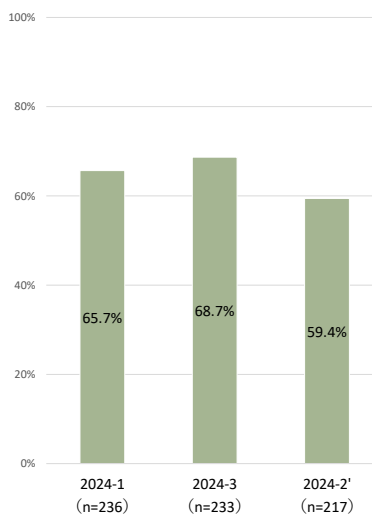
必須項目

これまでのHIV/性感染症検査
の受検経験



必須項目

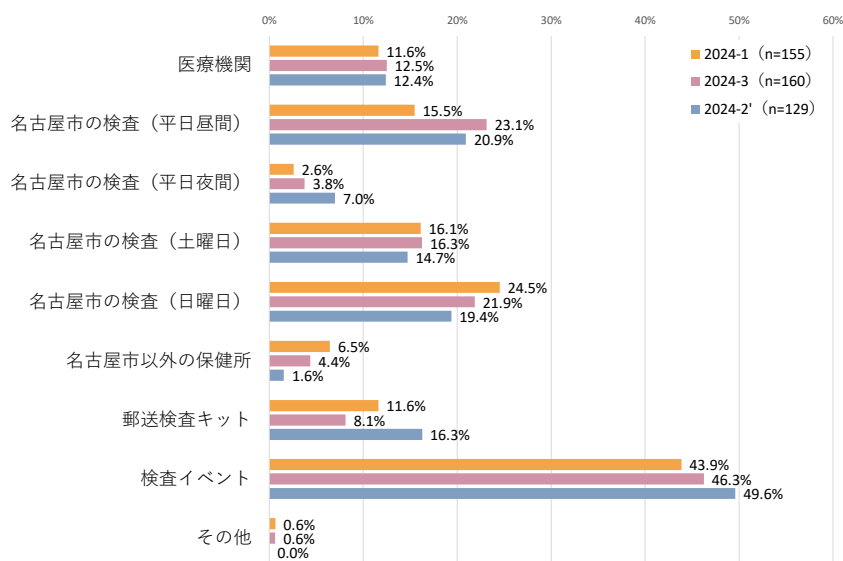
この1年間のHIV/性感染症検査の
受検経験 (受検経験ある人のみ対象)



27

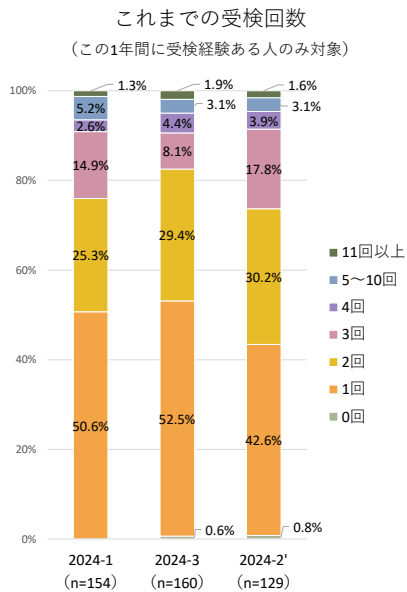
必須項目

この1年間の受検場所 (この1年間に受検経験ある人のみ対象) (複数回答)

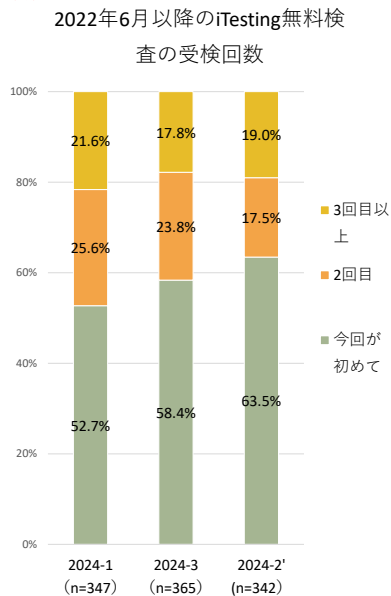


28

必須項目

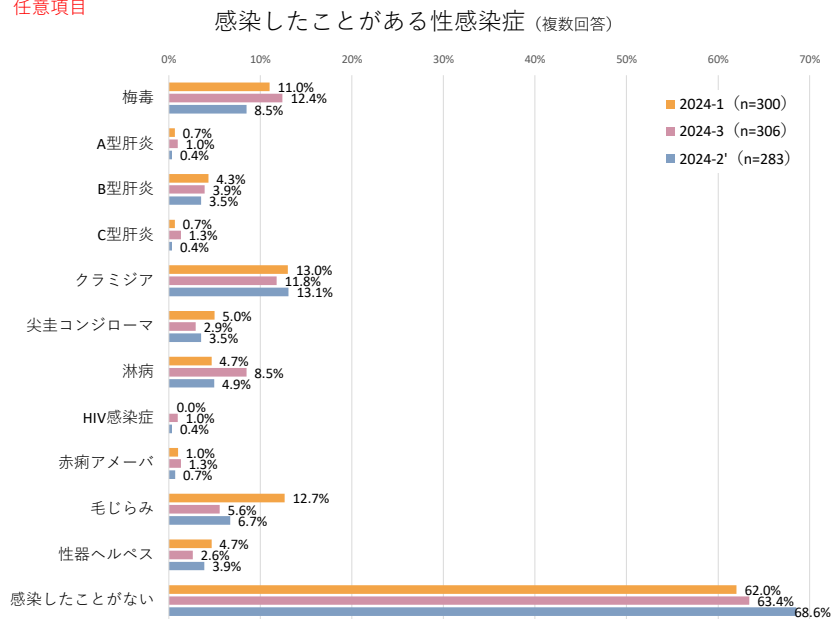


必須項目



29

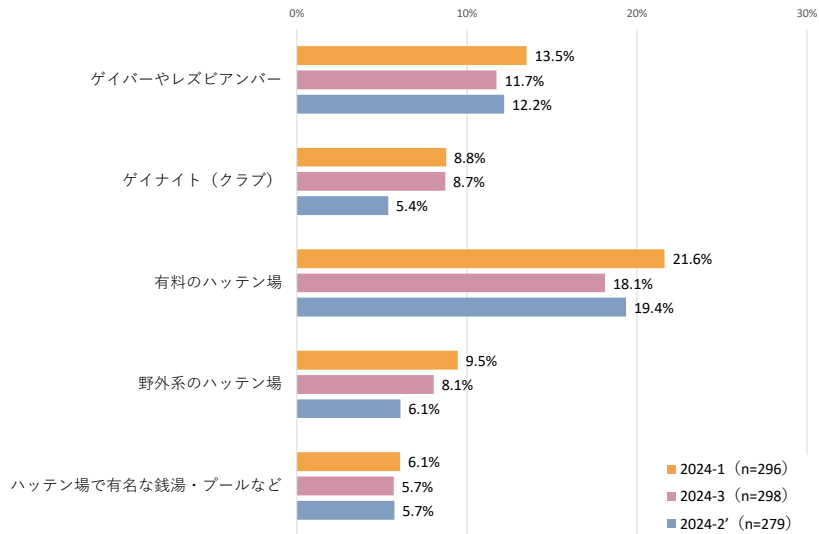
任意項目



30

任意項目

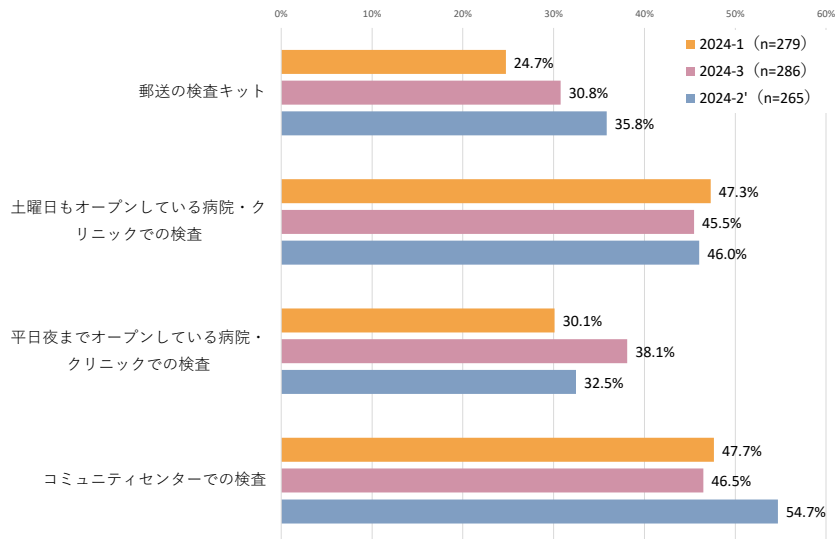
過去6か月間に利用した施設等（複数回答）



31

任意項目

今後の検査を希望する場所（複数回答）



32